

第 6 回巴川遊水地第 4 工区浄化対策フォローアップ委員会（議事要旨）

年 月 日	令和 3 年 11 月 10 日（水） 時間 13:30～15:00
開催場所	静岡県静岡総合庁舎 2 階第 1 会議室
要 件	令和 3 年度 第 6 回巴川遊水地第 4 工区 浄化対策フォローアップ委員会
参 加 者	<p>（委員） 京都大学_田中宏明名誉教授、静岡県立大学_雨谷敬史教授、京都大学_田中周平准教授 （事務局） 静岡県交通基盤部 河川砂防局長、河川海岸整備課長、 静岡土木事務所長ほか （行政） 静岡市：スポーツ振興課、環境保全課、廃棄物処理課、廃棄物対策課、緑地政策課、 河川課 （受託者） 大日コンサルタント株式会社</p> <p>※各委員・静岡県交通基盤部・静岡市は、別会場から web により参加</p>
<p><u>1. 議題</u> (1) これまでの事業経緯 (2) モニタリング結果 (3) 水質浄化対策の再検討 (4) 今後の予定</p> <p><u>2. 議事</u> 会議は公開で行われた。 ・ 議題 (1) ～ (4) について、事務局から検討内容について報告がなされ、討議・質疑応答が行われた。</p> <p><u>3. 議事の要点</u> (1) モニタリング結果 ・ ダイオキシン類濃度の推移（水質）については、季節的变化が確認できるよう調査日毎に整理すると良い。 ・ 水質分布マップについても、季節的变化が確認できるように全調査を統一した濃度レンジで作成すると良い。 ・ ダイオキシン類の成分に関連し、底質表層に残っているダイオキシン類の由来を再度確認しておくことよ。</p> (2) 水質浄化対策の再検討 ①ダイオキシン類環境基準超過要因の整理 ・ 近年の傾向として、SS 濃度が低いにもかかわらず、濃度の高いダイオキシン類が確認されているが、これは SS としてカウントされない 1 μ m より小さい粒子にダイオキシン類が付着しているためと考えられる。今後は、1 μ m より小さい粒子や溶存態も考慮して対策を検討されると良い。 ・ 滞留時間の計算は、より精度を上げるため蒸発量を考慮して計算したほうが良い。可能であれば、遊水地の水深や底質の状況も踏まえて水収支を計算できると良い。 ②水質対策工法の見直し・改善 ・ 水位管理として平常水位を上げるという考え方に加え、下げるという考え方についても検討されてはどうか。水位を下げることで植生復元の拡大や滞留時間の短縮に繋がり内部生産量が減少するというプラス面もある。一方で、水深が浅くなることで風等の影響を受けやすくなり、より巻き上がりやすくなるなどのマイナス面も考えられる。水位上昇は逆になる。 ・ また、遊水地の水位を変化させることによる周辺地下水位への影響を考慮しておく必要がある。水質浄化対策について、プラス面とマイナス面を考えていくとよい。 ・ 新しい自然環境の創出においては、新たな覆土が現在の底質の下に潜らないよう、比重に留意すると良い。また、土壌 pH が酸性のものをを用いることで植生復元に繋がると考えられる。 <p style="text-align: right;">（次頁へ続く）</p>	

- ・ 新たな自然環境の創出では、どのような自然環境を創出するのがポイントとなるので、麻機遊水地保全活用協議会と調整しながら検討を進めていく。
- ・ バンクフィルトレーションによる対策だけでは、遊水地の底質がシルト層であることや遊水地への流入量から試算すると、排水量が確保できないため、浄化対策としては不可能と考えられる。
- ・ 流入流量を下げ、遊水地からの放流水の濃度を下げるという点から、流入河川の一部をバイパスし、下池出口で合流させ希釈させる対策も検討してはどうか。
- ・ 今後の対策として、植生復元と表層土壌を替えるという考え方について、どちらが有効的かを中心的に検討されると良い。また、維持管理費についても対策検討するうえでは重要である。
- ・

4. 今後の予定

- ・ 次回の委員会では、今回の委員会で絞り込んだ水質浄化対策を対象に定量評価や工法検討、実施検証の結果を委員会で諮り、水質浄化対策工法の選定を行う。